

ユナイテッド・オーバーシーズ銀行(UOB)

統合が完了した米シティグループ東南アジア4カ国の個人向け金融事業の顧客基盤をクレカ事業で最大限に活かす戦略
シンガポール | 銀行 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG UOB:SP | REUTERS UOBH.SI

- 2025/12期4Q(10-12月)は、総収益が前年同期比5.0%減、純利益が同7.4%減。純金利マージンの縮小と経費率の悪化が響いた。
- ウェルス・マネジメント、クレジットカード関連の純手数料収益が伸長。リテール収益に占める両業務の比率を高める経営戦略を推進。
- 統合が完了した米シティグループ東南アジア4カ国の個人向け金融事業の顧客基盤をクレカ事業で最大限に活かす戦略が成長の鍵を握る。

What is the news?

2/24 発表の 2025/12 期 4Q (10-12 月) は、総収益が前年同期比 5.0%減の 32.89 億 SGD、経費率が同 0.8 ポイント上昇の 46.4%へ悪化、不良債権処理に係る減損損失が同 50.2%減の 1.13 億 SGD、純利益が同 7.4%減の 14.10 億 SGD だった。純金利マージン(NIM)の縮小が響き減収となったほか、テクノロジーへの支出や規制対応コスト増も利益面で響いた。前四半期比では、総収益が 3.2%減、債務者の債務状況が深刻に悪化していない段階で、将来の貸倒れリスクを先取りして貸倒引当金を積み増す「予防的引当金」のルールに基づいて融資先の貸倒引当金繰入額を大幅に積み増したことから反動もあり純利益が 3.2 倍、12 月末の貸出の質に係る不良債権比率(NPL)が 0.1 ポイント低下・改善の 1.5%だった。

4Q の総収益内訳は以下の通り。①純金利収益は前年同期比 4.3%減の 23.46 億 SGD。12 月末貸出残高が 4.1%増だったものの、純金利マージンが 0.16 ポイント低下の 1.84%へ悪化したことが響き減収となった。②純手数料収益は同 10.2%増の 6.25 億 SGD。グロス(総額)ベースでは、ウェルス・マネジメント業務が 14%増、クレジットカード関連が 6%増、ローン関連業務が 6%増とそれぞれ伸びた。③トレーディング・投資収益などのその他非金利収益は同 28.0%減の 3.19 億 SGD だった。

How do we view this?

2026/12通期会社計画は、手数料収益が前期比1桁台後半の伸び率(従来計画が1桁台後半~10%台)と下方修正したほかは、貸出残高の伸び率が前期比1桁台前半、純金利マージンが1.75-1.80%、営業費用が同1桁台前半の増加率、信用コストが25-30ポイントと従来計画を据え置いた。同行はクレジットカードや富裕層向け資産運用などを強化し、金利に左右されにくい収益構造を目指している。リテール(個人向け)収益に占めるクレカ事業と富裕層向け事業の比率を23年の38%から26年に50%に高め、26年までの3年間でクレカの手数料収入を平均年率15%伸ばす計画を掲げている。2025年に統合が完了した米金融大手シティグループの東南アジア4カ国(マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム)の個人向け金融事業は、顧客基盤が240万人に上る。UOB本体との合計で約800万人となる顧客基盤をクレカ事業で最大限に活かす戦略としている。

同行はシンガポール拠点の大手不動産会社UOLグループと同系列の企業グループ関係にあることもあり、不動産関連ビジネスに強い。傘下の資産運用会社UOBアセットマネジメントが、アジア太平洋地域に特化した環境配慮グリーン度の高いREIT(上場不動産投資信託)に投資する指数をシンガポール取引所(SGX)と共同開発している点も注目される。

業績推移

※参考レート 1SGD=124.16円

事業年度	2023/12	2024/12	2025/12	2026/12F	2027/12F
当期利益(百万SGD)	5,711	6,045	4,682	5,654	6,026
EPS(SGD)	3.33	3.54	2.75	3.41	3.66
PER(倍)	7.68	9.76	12.75	10.69	9.95
BPS(SGD)	26.00	28.11	29.36	31.66	33.21
PBR(倍)	0.98	1.23	1.19	1.15	1.10
配当(SGD)	1.60	1.80	1.56	1.73	1.84
配当利回り(%)	6.26	5.21	4.45	4.75	5.05

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(SGD) **1.73** (予想はBloomberg)
 終値(SGD) **36.40** 2026/3/25

会社概要

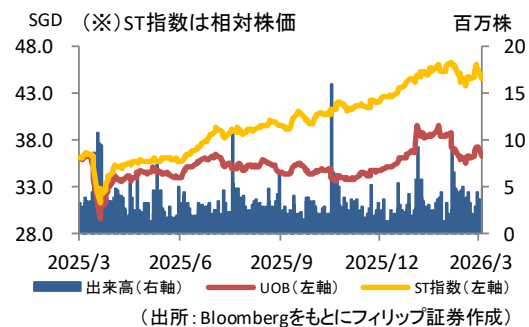
1935年にウィー・ケンチャン氏が創業した、シンガポールに本社を置く銀行。当初は福建省のコミュニティ向け「ユナイテッド・チャイニーズ銀行」として設立されたが、1958年に入行し1974年に跡を継いで主席となった息子のウィー・チョーヨー氏の経営の下で倉庫業や不動産業に参入し、華人系銀行を次々に買収、合併して急速に発展。2001年には当時のシンガポール四大銀行の一角を占めたOUB(華聯銀行)も吸収合併した。不動産会社のUOLグループもウィー・チョーヨー氏の下で一大企業集団に成長した。

東南アジアでのビジネス拡大を図る日系企業に対して、東南アジアにおけるクロスボーダーのビジネス支援にも注力している。

シンガポールでは、クレジットカード、民間住宅ローンのマーケットリーダーであり、中小企業向けローンにおいてもキープレイヤーである。資産運用を担うUOBアセットマネジメントのほか、グループ傘下には、中国、インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナムに拠点となる完全子会社の銀行を擁し、東南アジア全域で活動を展開している。

企業データ(2026/3/25)

ベータ値	1.08
時価総額(百万SGD)	60,211
企業価値=EV(百万SGD)	-
3ヵ月平均売買代金(百万SGD)	127.2



主要株主(2026/3)

1.WEE INVESTMENTS PTE LTD	8.07
2.WAH HIN & CO PTE LTD	5.24
3.VANGUARD GROUP	3.39

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
 +81 3 3666 6980
 kazuhito.sasaki@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平14.1.25）」に基づく表示>

・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。